航空機整備とターボチャージャーを経営の両輪に
唯一無二ともいえる事業活動を展開

多摩川スカイプレシジョン株式会社

会社概要

所在地	千葉県木更津市かずさ鎌足 3-6-1
設立	1938 年（昭和 13 年）10 月
代表者	代表取締役社長　高澤　敦朗
従業員数	約 94 名（パート　アルバイト含む　2024 年 7 月 20 現在）
ホームページ	http://www.tamagawa-sp.co.jp/
健保加入年月日	1970 年（昭和 45 年）7 月 1 日

本社社屋外観

出荷を待つ整備済ホイール

タイヤ倉庫内部

ホイールの非破壊検査工程

部品検査風景

その数国内わずか3社というユニークな航空機整備事業

航空機の飛行には最初と最後に離着陸という大きなポイントがあり、離陸時の3分と着陸時の8分は、最も事故が発生しやすいことから「魔の11分」といわれています。多摩川スカイプレシジョン株式会社（以下、多摩川スカイプレシジョン）の中核事業は、この離着陸時の安全を担う航空機用ホイールおよびブレーキの整備。この業務を行っているのは多摩川スカイプレシジョンを含めて国内に3社しか存在しないという、まさにプロフェッショナルな企業です。

航空機の整備は、航空法の規定のもとに認定を受けた事業者しか行うことができず、ホイール検査員やブレーキ整備士などの有資格者が、航空法に定める手順に従って進める厳格なものとなっています。多摩川スカイプレシジョンは1968年国土交通省航空局の認定工場資格を取得。以来半世紀以上にわたって航空機整備業務を行ってきました。機体メーカーや機種、ホイールやブレーキメーカーなどによって作業手順、内容もまさに千差万別。多摩川スカイプレシジョンのような一見目立たない企業の存在が、空の旅の安全を日々守り続けているのです。

60年以上の長い歴史を誇るターボチャージャー関連事業

航空機整備事業のほか、ターボチャージャーの部品製造も多摩川スカイプレシジョンの経営の柱。この分野の歴史も古く、1962年、国内大手重工メーカーから大型ジーゼルエンジン用過給機を受注したのを始まりに60年以上の実績を重ねてきました。

現在、主力となっているのは難削材ともいえる超硬金属を用いたタービンシャフトの軸受けと高度な精度が要求されるというウェイストゲート（タービンへの排気の流入量を調節するバルブ機構）部品。そのラインアップは100種類にも及びます。近年自動車などの電動化が進むなかでも、得意とするトラックや農機、船舶用などのいわゆるパワー系ターボチャージャーの需要は比較的安定しているといい、当面は従来通りの受注継続が期待できます。

最近、防衛省関係の受注を獲得し、さらにヘリコプターのホイール・タイヤへと範囲を拡げる航空機整備事業、そしてターボチャージャー事業の2つを経営の両輪とする多摩川スカイプレシジョンは、唯一無二のともいえるユニークな企業として今後も独自の成長を遂げていくに違いありません。

健康管理担当者の声

有機溶剤を使用する部署のスタッフには一般の健康診断のほか特殊健康診断を実施。重量のある航空機用のタイヤ・ホイールの扱いにはケガをしないよう厳重な新人研修を行っています。

健保財政安定化のために！

当組合に加入していただける関連・取引事業所をご紹介ください